



滋賀県議会議員

た な か ま つ た ろ う

田中松太郎

新型コロナウイルス変異株の急激な感染拡大に止まりがつかず、8月はまん延防止と緊急事態宣言に伴う臨時議会が二回開催され、六日に約九億五千万、二五日には約七億三千万の追加補正予算を可決したところで、来る九月議会でも引き続きコロナ関連の対策について重点的に対応してまいります。



プロフィール ■ 1972年 滋賀県甲賀市生まれ ■ 甲賀市甲賀町 在住 ■ 家族構成：母・妻・長男(大学生)・次男(高校生) ■ 教育・文化スポーツ常任委員会、議会運営委員会、教育改革・ICT推進対策特別委員会

田中松太郎 事務所 甲賀市水口町北脇436-1 TEL.0748-63-5340/FAX.0748-63-5341

田中松太郎 検索

緊急事態宣言 発令中

9月12日まで(滋賀県全域) あなたと大切な人を守るための行動をお願いします。

● 飲食店等休業時短要請と支援等については



● 滋賀県ホームページ



6月定例会議一般質問



琵琶湖モーターボート競走場

モーターボート競走場(現：ボートレースびわこ)が開場したのは昭和27年です。平成2年度に518億円の売上を達成するも娯楽の多様化、ファンの高齢化の影響などから利用客が減少、平成22年度前後では県営施設でありながら県の一般会計への繰り出し金が1千万円以下という時期もありました。しかし、インターネット投票が導入されてからは業界全体で売上は回復傾向にあり、平成30年度は382億円、令和元年度には401億円を上げ、一般会計への繰り出し金が4億円となり、県の財政に貢献する公営競技としての側面を徐々に取り戻しつつあります。

昨年度はコロナ禍にありながらも全国24のボートレース場の総売り上げは2兆円を超え、ボートレースびわこでも、平成22年の売上を大幅に更新する675億円になったと聞いています。この収益のうち10億円を県の令和2年一般会計へ繰り出したとの報道があり、金額に驚くと同時にコロナ禍にあっ

て明るい話題である大変喜んでおります。そこで、ボートレースびわこの現状について伺います。(動画もご覧ください)



*「競艇」という名称は平成22年までの呼び方で、現在はボートレースと改称されています。改称された背景には、若年層のファン獲得という目的の他、競艇という競技自体を国際化させるという動きもあったようであり、コロナ前には海外からの観光客も大きなターゲットとなっていました。

● 公営競技全体の売上の内訳について。

● 総務部長 令和2年度の公営競技5競技の売上は、モーターボート競走事業が2兆951億円強(前年度比35.7%増)、中央競馬が3兆112億円強(前年度比5.6%増)、地方競馬が9,122億円強(前年度比30.1%増)、競輪が7,499億円強(前年度比13.6%増)、オートレースが9,466億円強(前年度比28.1%増)、5競技全体では6兆8,633億円強(前年度比17.7%増)です。

● 無観客開催でも売上増加につながった取り組みについて。

● 総務部長 公式YouTubeで昨年8月から全国初の全レース全日程での予想配信を開始しました。単なる舟券予想番組が多い中、ボートレースびわこでは実績のあるユーザーをMCに据え、業界誌ライターやお笑い芸人等の多様な出演者が長期にわたって舟券の回収率を競い、優勝者を決定する番組にした結果、気軽に楽しんで学びながら舟券を購入できる番組となり、登録者数の大幅な増加(前年度比34倍)や売上の向上(電話やインターネット投票の売上は前年度比約2.2倍、489億円)に寄与したと分析しています。

● ボートレースびわこからの繰り出し金の使途について。

● 総務部長 福祉や教育等の充実を図るため、例えば乳幼児福祉医療費助成事業やびわ湖フォーテイングスクール活動費などの財源の一

部として活用しています。舟券購入が県財政に貢献していることへのお礼と繰入金金の使途については、ホームページやSNS、レース場内に分かりやすく掲載し、広くボートレースへの理解が深まるようPRしていきたいと考えています。

● 総務部長 今年4月～6月の売上は約156億円で、一般戦(女子戦を除く)の1日当たりの平均売上は前年度同月比で34%増となっています。10月以降にG1競走等、注目度の高いレースが控えていることから、引き続き好調な売上を期待しています。

● 廃棄物処理について

● 廃棄物には、大きく分けて「一般廃棄物」と「産業廃棄物」があります。法令で定める20種類が「産業廃棄物」、それ以外は「一般廃棄物」となり、家庭から排出される廃棄物もすべて「一般廃棄物」です。一般廃棄物は、市町の責任において処理され、県が直接処理にかかわることはありません。しかし、現在策定中の第五次滋賀県廃棄物処理計画において一般廃棄物を含めた廃棄物全般の発生抑制による減量や、適正処理の観点から循環型社会の形成を推進することが位置付けられており、その中で県の役割として、「県内の一般廃棄物および産業廃棄物の処理状況の把握を行うとともに、県民、NPO等の各種団体、事業者等の各主体が、循環型社会の実現に向けて積極的に取り組むことができるよう、各主体と連携・協力し各種施策を実施します。」と記載されています。そこで、「一般廃棄物」の処理について伺います。

● 県における一般廃棄物の排出状況について。

● 琵琶湖環境部長 一般廃棄物処理事業実態調査(環境省実施)の令和元年度実績は、一般廃棄物の総排出量は43万5千トン、県民1人1日当たりのごみ排出量は837gです。

● 琵琶湖環境部長 リデュース・リユースの「2R」の取り組みの強化およびリサイクルの推進を基本方針として、ごみを出さないライフスタイルへの転換を目指しています。特に、一般廃棄物のうち生活系ごみが全体の約7割を占めることから、容器包装の削減や食品ロス等の削減などを中心に取り組んでいます。

● 琵琶湖環境部長 現在策定中の第五次滋賀県廃棄物処理計画では、世界的な課題となっているプラスチックごみの発生抑制、「食品ロス」の削減と、災害時に大量に発生する「災害廃棄物」の円滑な処理体制の構築を重点施策に位置付けています。今年3月に策定した「滋賀県プラスチックごみゼロ」に向けた実践取組のための指針や「滋賀県食品ロス削減推進計画」などを踏まえ、県民、事業者の一人一人がごみの問題に関心をもち、自らごみ削減の取り組みを実践できるよう促進していきます。

● 琵琶湖環境部長 琵琶湖環境部長 琵琶湖環境部長 琵琶湖環境部長

● 琵琶湖環境部長 琵琶湖環境部長

● 琵琶湖環境部長 琵琶湖環境部長

● 琵琶湖環境部長 琵琶湖環境部長

● 琵琶湖環境部長 琵琶湖環境部長

● 琵琶湖環境部長 琵琶湖環境部長

● 琵琶湖環境部長 琵琶湖環境部長

● 琵琶湖環境部長 琵琶湖環境部長

田中松太郎の日々の活動は SNS等で配信しています！
公式ホームページ
Facebook
Instagram
http://matsutaro.jp/
検索 田中松太郎